２．セッション１

大学教職員セッション
「ITを活用した授業の改善について」

1）平成26年度 授業の教育効果について（サマリー）

2）各大学 授業スケジュールと授業毎のアンケート結果
（北海道医療大学，岩手医科大学，昭和大学）

3）各大学 同一問題の正答率推移

1）平成26年度 授業の教育効果について（サマリー）

① 平成26年度 Step1（3年生）のシラバスと授業アンケート結果

② 平成26年度 Step2（4年生）のシラバスと授業アンケート結果

③ VPシステムによる教育効果

④ e-ラーニングにおける正答率の推移

① 平成26年度 Step1（3年生）のシラバスと授業アンケート結果

コース：社会と歯科医療・チーム医療

背景：我が国では超高齢社会の到来により、様々な基礎疾患を有し、薬を服用している患者が、歯科を受診する率が高まっている。また一般医科病棟でも、当該の病気に加えて、口腔機能管理の重要性が増している。さらに、介護が必要な高齢者の増加と共に呼吸器感染症の予防や摂食嚥下機能の維持・回復のための口腔ケア等の重要性が高まっている。

一般目標（GIO）：

国民の健康に貢献できるオーラルフィジシャン（口腔科医）になるために、医療の仕組みを理解し、多職種連携のチーム医療に参加し、特に高齢者にみられることが多い口腔症状と各種全身疾患との関連を理解した上で、口腔のケアプランを立案する能力を獲得する。

D3　チーム医療と口腔医学Ⅰ（チーム医療Ⅰ）

対象学年：3年生　後期　　授業形式等；e-learning、講義

一般目標（GIO）：

国民の健康に貢献できるオーラルフィジシャン（口腔科医）になるために、医療の仕組みと高齢者に多くみられる全身疾患、口腔症状および多職種連携のチーム医療を理解し、口腔症状への対応の基本を身につける。

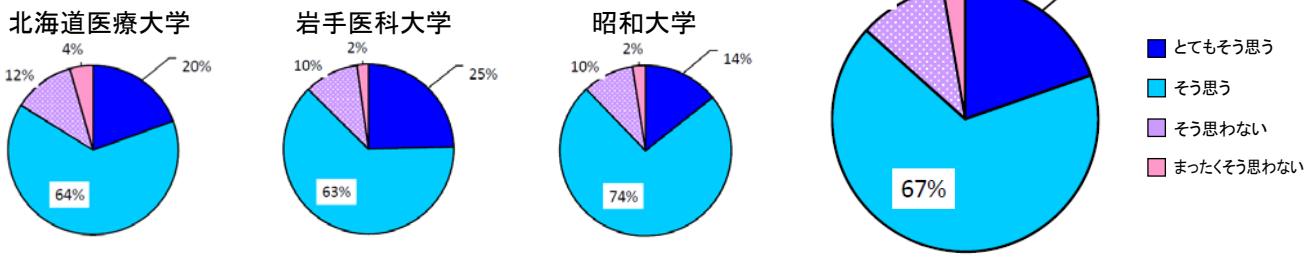
到達目標（SBOｓ）：

1. 社会の歯科医療に対するニーズを理解し、社会に必要とされる歯科医師像を考える。
2. 高齢者に多く見られる基礎疾患について概説する。
3. 基礎疾患と歯科診療との関連について概説する。
4. 日本の将来人口推計等から今後の日本の医療・歯科医療体系を考える。
5. 脳梗塞の症状と口腔の機能に対する影響を説明する。
6. 発症から症状の回復までの一連の医療体制を概説する。
7. 医療・歯科医療の連携と病院におけるチーム医療の基本を説明できる。
8. 唾液の分泌に影響を与える因子について説明できる。
9. 口腔乾燥症の口腔内所見について説明できる。
10. 口腔乾燥症と基礎疾患との関連について説明できる。
11. 口腔内環境・機能検査として、唾液分泌能測定、口腔乾燥度測定、細菌数測定、嚥下機能測定、および咬合力測定を実施し、その結果を評価できる。

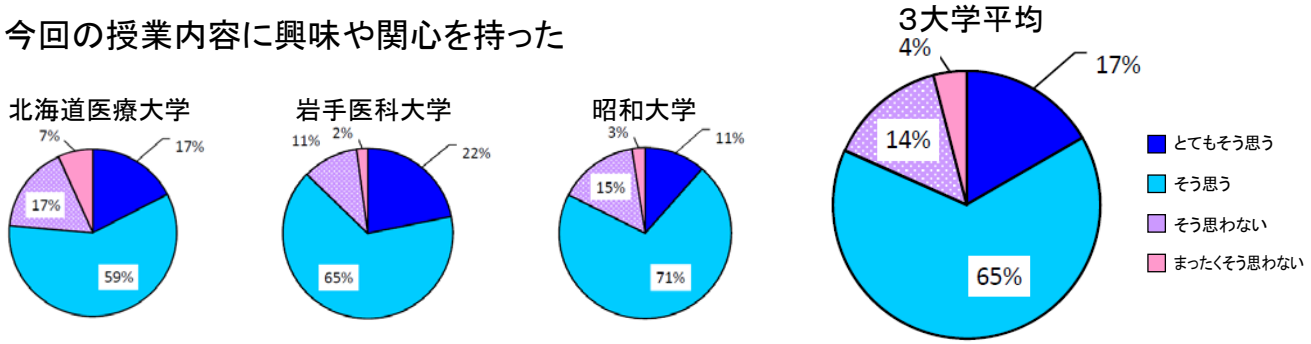
評価：定期試験(60%)　ポートフォリオ・e-learning(40%)

平成 26 年度　STEP1（3年生 ） 3連携大学　IT 連携授業アンケート
学習項目 ：チーム医療と口腔医学 I

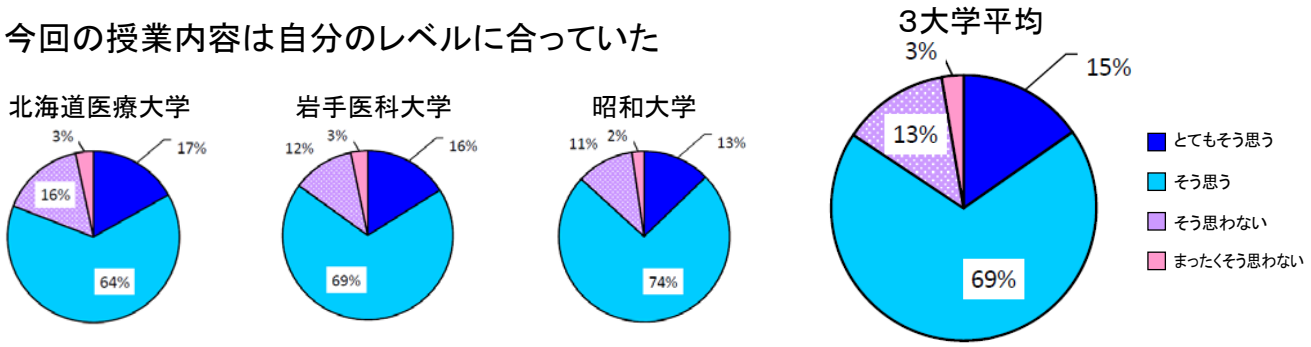
1. 今回の授業内容について理解しやすかった



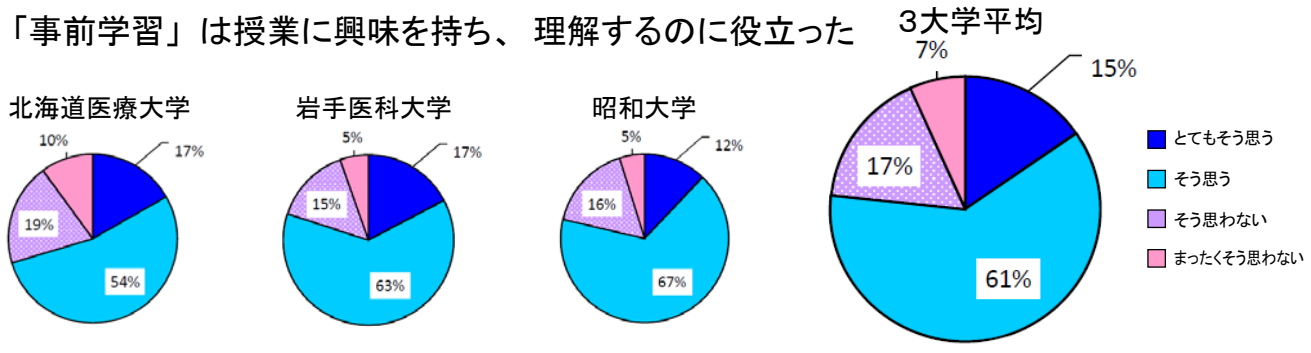
2. 今回の授業内容に興味や関心を持った



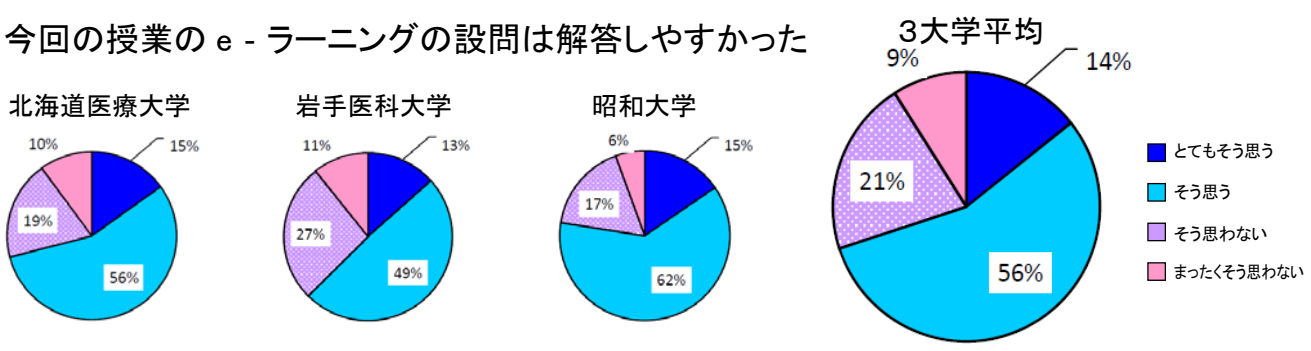
3. 今回の授業内容は自分のレベルに合っていた



4.「事前学習」は授業に興味を持ち、 理解するのに役立った

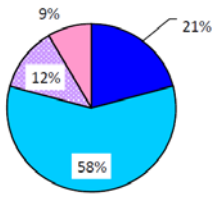


5. 今回の授業の e - ラーニングの設問は解答しやすかった

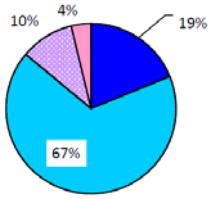


6. 今回の授業の解答時間は十分であった

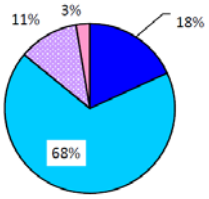
北海道医療大学



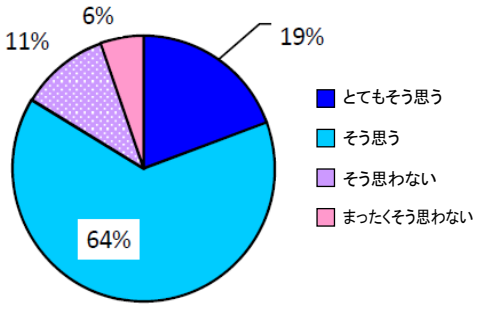
岩手医科大学



昭和大学

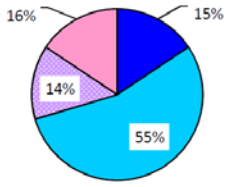


3大学平均

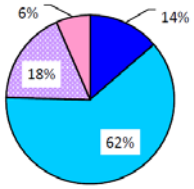


7. 今回の授業で e-ラーニング・VP とリソース講義の組み合わせは良かった

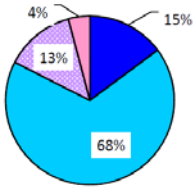
北海道医療大学



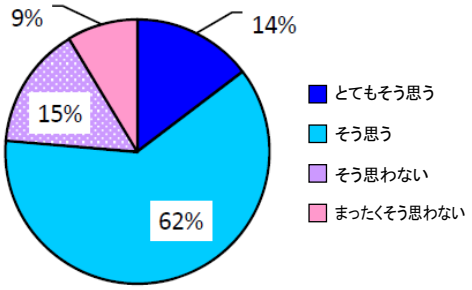
岩手医科大学



昭和大学

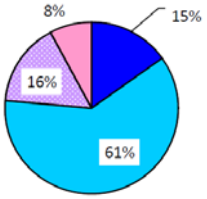


3大学平均

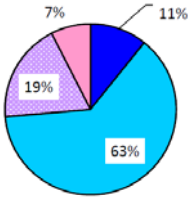


8. 今回の授業で重要な内容を「まとめテスト」で身についたかどうか確認できた。

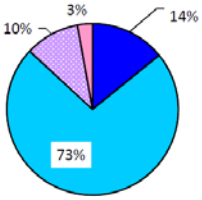
北海道医療大学



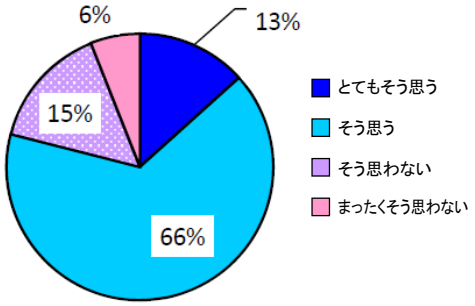
岩手医科大学



昭和大学

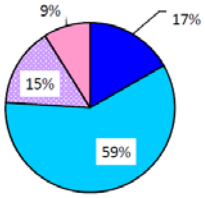


3大学平均

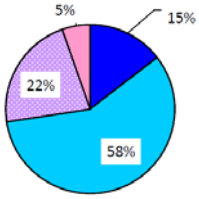


9. 今回の授業で e - learning の操作は容易であった

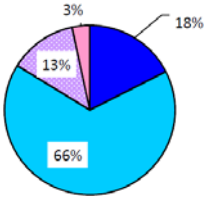
北海道医療大学



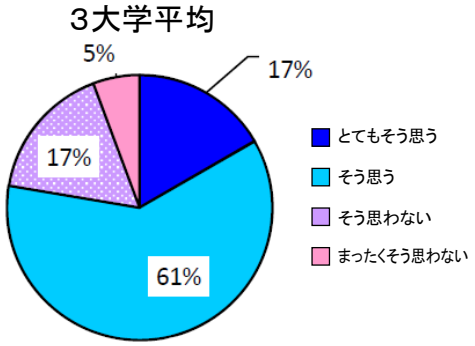
岩手医科大学



昭和大学

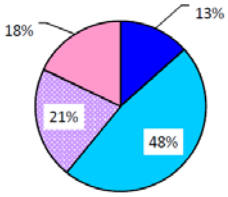


3大学平均

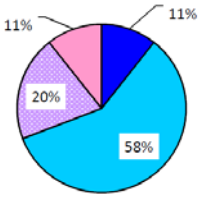


10.「復習課題」があれば「復習課題」を使って復習したい

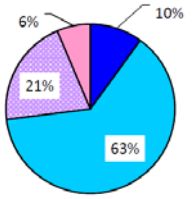
北海道医療大学



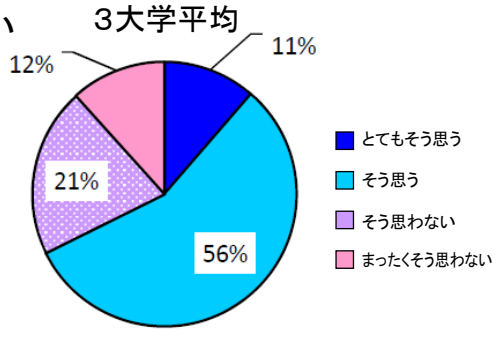
岩手医科大学



昭和大学



3大学平均



② 平成26年度 Step2（4年生）のシラバスと授業アンケート結果

コース：社会と歯科医療・チーム医療

背景：我が国では超高齢社会の到来により、様々な基礎疾患を有し、薬を服用している患者が、歯科を受診する率が高まっている。また一般医科病棟でも、当該の病気に加えて、口腔機能管理の重要性が増している。さらに、介護が必要な高齢者の増加と共に呼吸器感染症の予防や摂食嚥下機能の維持･回復のための口腔ケア等の重要性が高まっている。

一般目標（GIO）：

国民の健康に貢献できるオーラルフィジシャン（口腔科医）になるために、医療の仕組みを理解し、特に高齢者にみられることが多い口腔症状と各種全身疾患との関連を理解した上で、口腔のケアプランを立案する能力を獲得する。

D４　チーム医療と口腔医学 II （チーム医療 II）

対象学年：4 年生　後期

授業形式等；e-ラーニング、VP、講義、SGD

一般目標（GIO）：

超高齢社会に対応できるオーラルフィジシャン（口腔科医）になるために、高齢者に多くみられる全身疾患、口腔症状および多職種連携のチーム医療を理解し、口腔症状への対応を身につける。

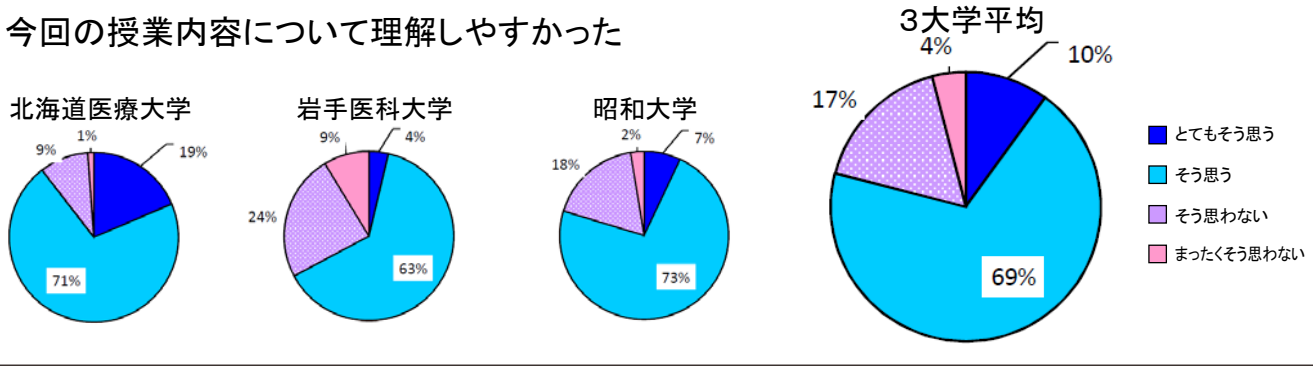
到達目標（SBO s）：

1. 高齢者に多く見られる基礎疾患について説明できる。
2. 基礎疾患を有する患者の歯科診療における注意点を説明できる。
3. 口腔内科的疾患について概説できる。
4. 口腔乾燥を訴える患者の鑑別診断を説明できる。
5. 口腔乾燥を訴える患者に対して医療面接で聞く内容を説明できる。
6. 口腔乾燥症の症状と治療法を説明できる。
7. 脳卒中の症状と全身および口腔の機能に対する影響を説明できる。
8. 急性期と回復期のチーム医療体制を説明できる。
9. 医療・歯科医療の連携と病院におけるチーム医療を説明できる。
10. 口腔内環境・機能検査として、唾液分泌能測定、口腔乾燥度測定、細菌数測定、嚥下機能測定、および咬合力測定を実施し、診断につなげることができる
11. 全身疾患を有する患者に対する口腔のケアの実施について説明できる。

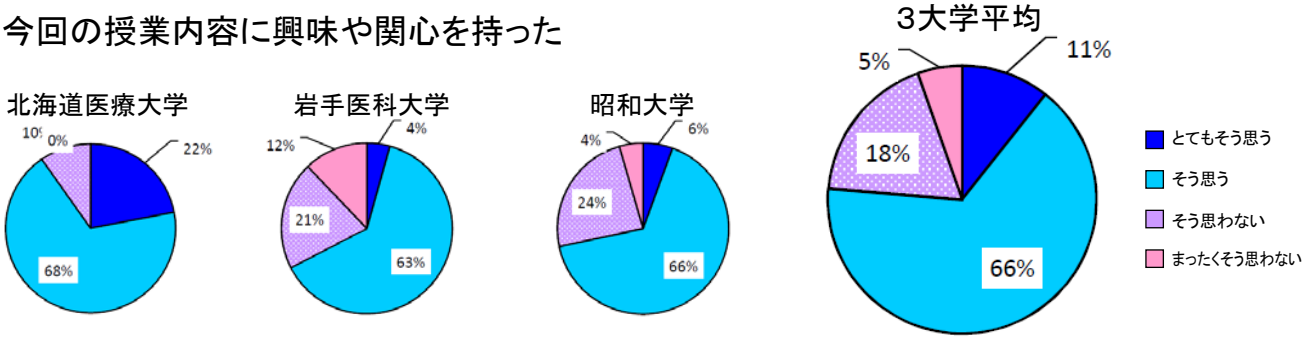
評価：定期試験(60%)　ポートフォリオ・e-ラーニング・VP(40%)

平成 26 年度　STEP2（4年生）3連携大学　IT 連携授業アンケート
学習項目：チーム医療と口腔医学Ⅱ

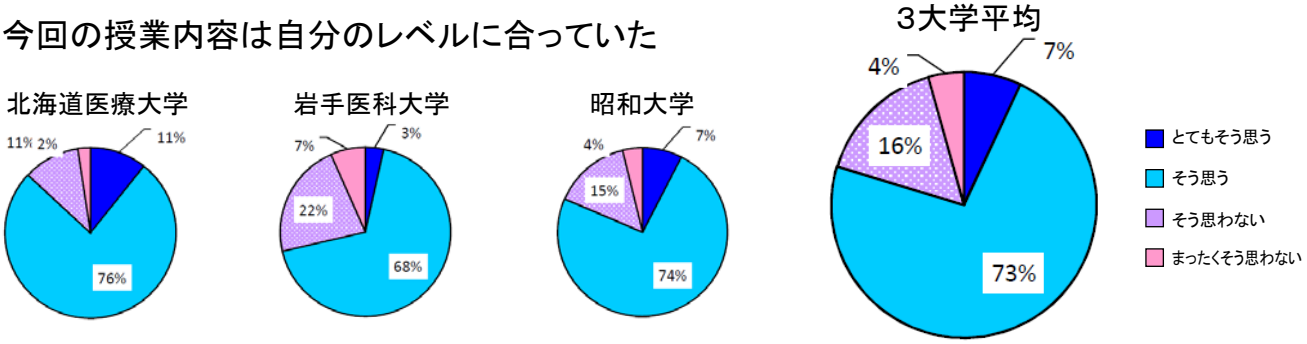
1. 今回の授業内容について理解しやすかった



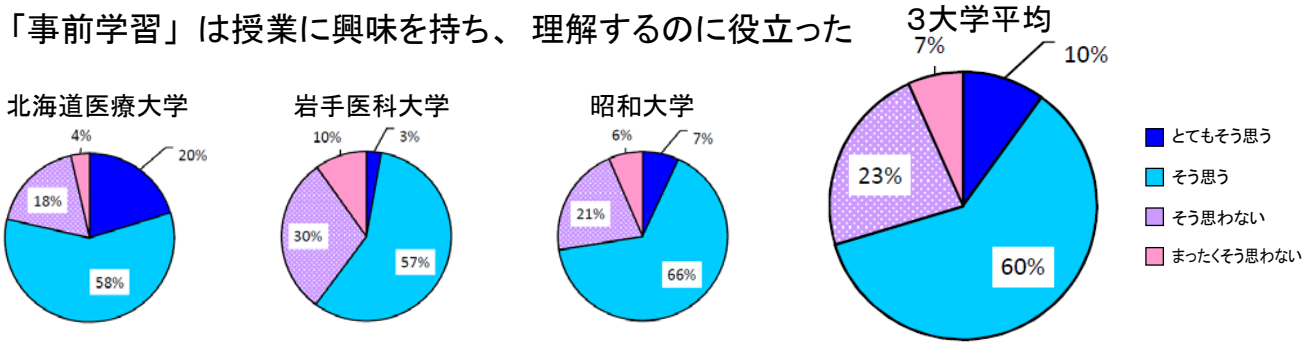
2. 今回の授業内容に興味や関心を持った



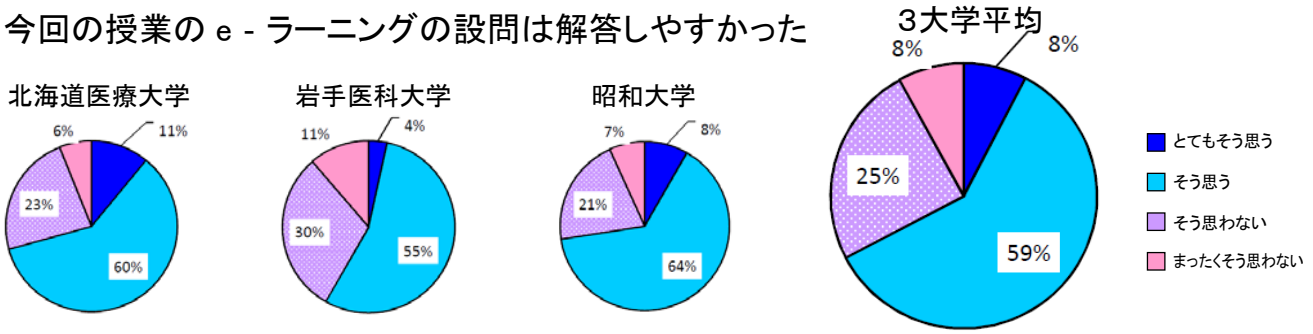
3. 今回の授業内容は自分のレベルに合っていた



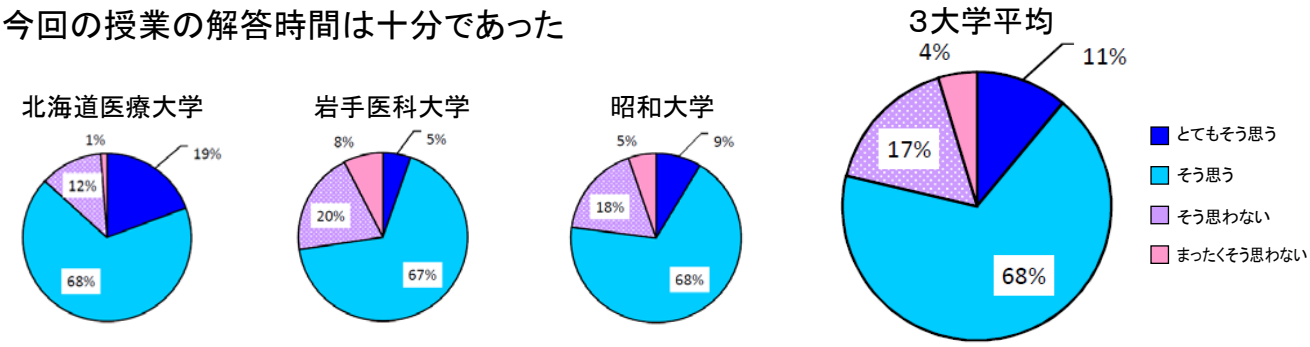
4.「事前学習」は授業に興味を持ち、理解するのに役立った



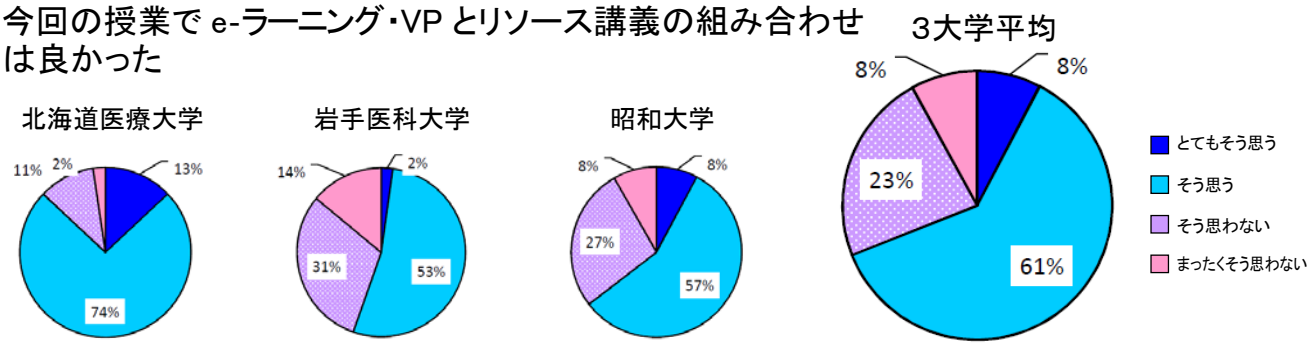
5. 今回の授業の e - ラーニングの設問は解答しやすかった



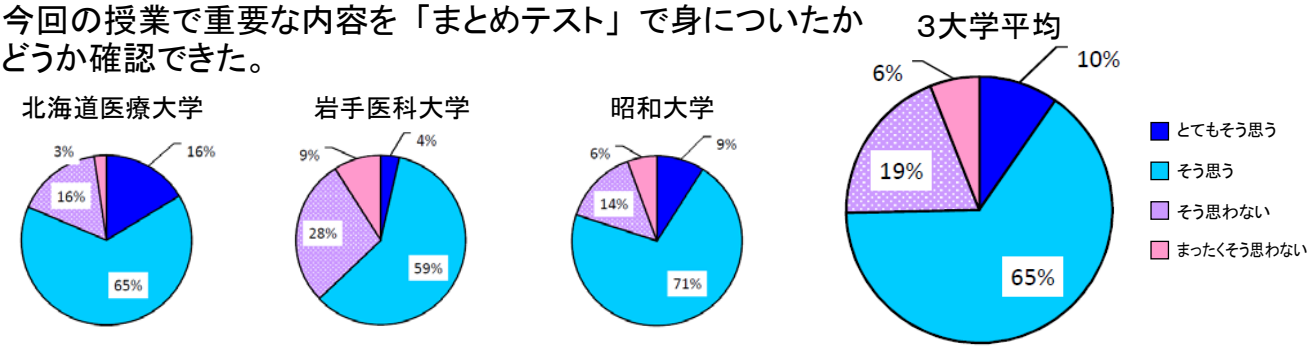
6. 今回の授業の解答時間は十分であった



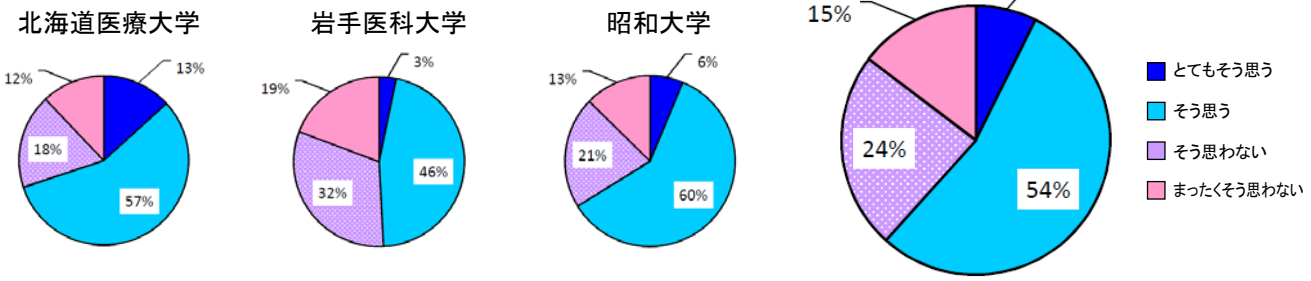
7. 今回の授業で e-ラーニング・VP とリソース講義の組み合わせは良かった



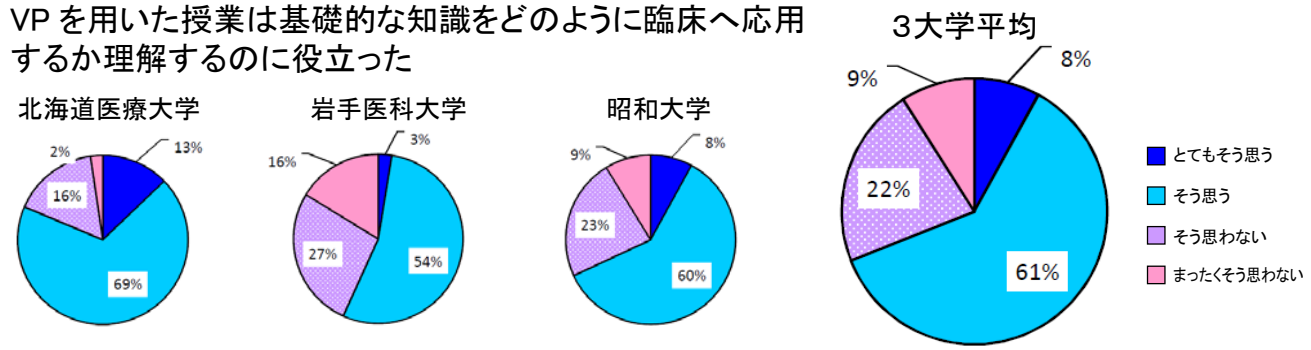
8. 今回の授業で重要な内容を「まとめテスト」で身についたかどうか確認できた。



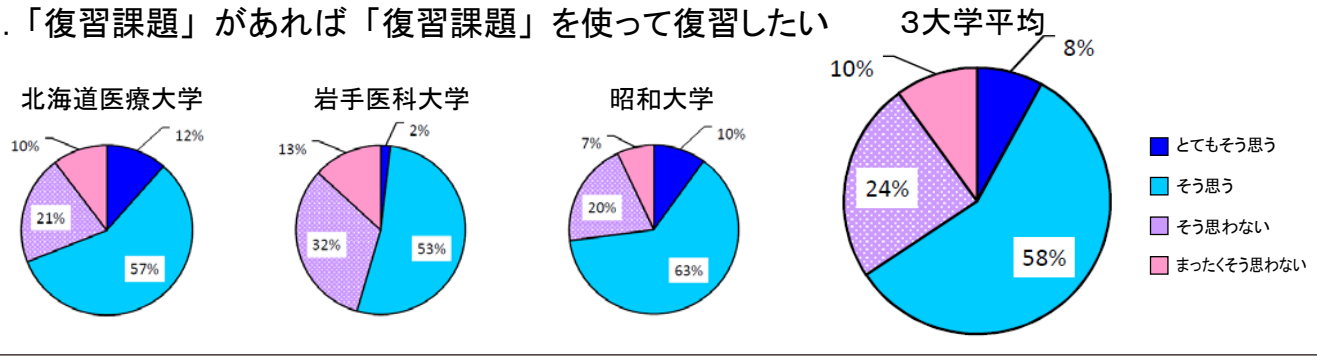
9. 今回の授業で e - learning の操作は容易であった



10. VP を用いた授業は基礎的な知識をどのように臨床へ応用するか理解するのに役立った



11.「復習課題」があれば「復習課題」を使って復習したい



③ VPシステムによる教育効果

仮想患者教育（VP）システムによる教育効果について

１．評価の対象とした症例について

１）オリエンテーションで使用した VP

症例名	患者名	主訴	基礎疾患
練習用症例	松本アズサ	奥歯がなくて噛みづらい	高血圧

２）授業で使用した VP

症例名	患者名	主訴	基礎疾患
授業１	岩手一郎	臼歯部の動揺と咬合痛	高血圧、不整脈
授業２	山田一郎	入れ歯が合わない	脳梗塞の回復期

２．医療面接における情報収集力

医療面接における質問内容	仮想患者教育（VP）システムと質問率（%）		
	松本アズサ（練習）	岩手一郎	山田一郎
血圧の確認	９	６１	－
常用薬の確認	１７	５２	４７
重篤な既往歴	３０	６４	８０
他科への通院歴	１１	５１	－
基礎疾患の発症時期	－	８９	４０
基礎疾患に対する服薬の確認	－	４３	５５
平均質問率（%）	１７	６０	５６

平均質問率はオリエンテーションでは 17%であったが、授業においては約 60%に上昇していた。

３．今後の計画について

今後、症例ごとの質問内容のばらつきをなくし、情報収集のみでなく、必要な検査、診断を検討し、診断に基づいた治療計画を立案するような IT 教材（e-ラーニングと VP を組み合わせたもの）を Step３（5 年生）で実施する予定である。

④ e-ラーニングにおける正答率の推移

同一学生（2013年3年生・2014年4年生）の同一問題に対する正答率の推移

2013年　3年生		2014年　4年生
60%	→	75%

授業前・授業後の正答率の推移

授業前		授業後
42%	→	91%

